

Title	高木壬太郎 著作目録
Author(s)	川崎, 司
Citation	聖学院大学論叢, 13(1): 51-90
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=504
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

高木壬太郎 著作目録

川 崎 司

The Writings of Mizutarô TAKAGI

Tsukasa KAWASAKI

In this paper Mizutarô's writings are arranged in chronological order. The writings reveal the accomplishments of a truly spiritual mind.

In making inquiries regarding Mizutarô's writings, many libraries and research facilities provided assistance, and I gratefully acknowledge their kindness.

Mizutarô TAKAGI (1864-1921)

He fulfilled his life mission as a theologian and educator.

He was born in Nakakawane-mura in the Haibara District of Shizuoka. During his days at Shizuoka Normal School, he founded a literary magazine entitled "Gozan Ippô" with his friend Aizan YAMAJI. During his tenure as head teacher of the elementary school in Gotenba, he took an active part in the democratic rights movement. In 1886 he was baptized by Yoshiyasu HIRAIWA, the pastor of the Shizuoka Methodist Church.

In 1886 he came to Tokyo and was admitted to Toyo Eiwa Gakko (Boy's School). From 1895 to 1898 he studied New Testament at Victoria University, and was given the honorary degree of Doctor of Theology in 1906.

After returning to Japan he became a professor at Toyo Eiwa Gakko and Aoyama Gakuin. In 1913 he was inaugurated as the Principal of Aoyama Gakuin. In his Tokyo days he held pastorates in Tsukiji Church, Azabu Church and the Central Tabernacle. He showed considerable ability as the chief editor of the Methodist journal "Gokyo". He was the compiler of "The Great Christian Dictionary."

Key words; A Christian's Life work, A Solemn Divine Vocation, A Phase of Modern Japanese History, A Passion for Spiritual Revolution, Delight in Discovering Research Material

高木壬太郎 著作目録

この目録は、高木壬太郎の著作を年月の順に並べたものです。

その一つ一つから、明治・大正期を「神」とともに歩んだ一基督教徒の、つましやかな生涯が浮かんでいきます。決してくじけることのない高々としたところごしが静かに迫ってきます。

文献の所蔵先は以下の通りです。

青山学院資料センター・慶応義塾大学斯道文庫・昭和女子大学近代文庫・日本基督教団聖書之友教会・東京大学明治新聞雑誌文庫・宗教法人道会・同志社大学人文科学研究所・東洋英和女学院史料室・日本キリスト教女子青年会 各機関。

大阪府立中之島・国立国会・静岡県立中央・筑波大学附属中央・東京女子大学・東京神学大学・同志社大学・成田山仏教・日本女子大学・早稲田大学 各図書館。

池田春樹・河村計三（故人）・高木喜美子（故人）・高木直子・高木智夫（故人）・八木伊三郎（故人） 各氏。

なお、この調査にあたって鈴木範久先生からは特別の指導をいただきました。

皆様にここからの感謝を捧げます。

次は『岩波キリスト教辞典』（2002年刊行予定）に寄せた壬太郎の略歴です。

高木壬太郎 たかぎ みづたろう 1864-1921（元治1-大正10）

明治・大正期の神学者，教育家。遠江国榛原郡中川根村に生れる。静岡師範学校在学中に山路愛山と詩文雑誌『呉山一峰』を創刊。御殿場の小学校長時代，自由民権運動に奔走。86年静岡メソジスト教会で平岩愷保牧師より洗礼を受ける。89年上京，東洋英和学校に学び，95年から3ヵ年ビクトリア大学留学（新約聖書神学専攻，1906年神学博士号取得）。帰国後，東洋英和学校，青山学院教授をつとめ，13年青山学院長に就任。上京以来この間，築地，麻布，中央会堂，駒込各教会牧師およびメソジスト派機関紙『護教』の主筆として活躍。『基督教大辞典』を編纂。著書『ジョン・ウエスレー伝』『基督教的品性』『基督教安心論』『生活と宗教』など。

高木壬太郎 著作目録

『 』 = 書 名 [] = 掲 載 欄 [] = 開書応答など	署 名	掲載紙誌名 〈 〉 = 発行所	発行年月日 M=明治, T=大正 S=昭和
[論説] 告天下之学生文 第二	倭 丈 夫	呉 山 一 峰	M13.12.10
[論説] 灯火独語	倭 丈 夫	呉 山 一 峰	M14. 2.25
[逸詞] 薔薇説	瑞 軒 学 人		
[寄書] 元氣論	高 木 瑞	静 岡 新 聞	M14. 4.22
[寄書] 岡眼八目論	坎 堂 樵 夫	静 岡 新 聞	M14. 9.24
[寄書] 岡眼八目論(前号ノ続キ)		静 岡 新 聞	M14. 9.25
[論説] 種痘論	不為已齊主人	静岡県隆美協会雑誌	M18.11.20
[雑録] 通俗衛生会の必要・夫人束髪	東 海 生	静岡県隆美協会雑誌	M18.12.20
[論説] 明治十八年衛生記事	東 海 生	静岡県隆美協会雑誌	M19. 1.10
[論説] 明治十八年衛生記事(承前)	東 海 迂 狂	静岡県隆美協会雑誌	M19. 2.20
『心の写真 MENTAL PHOTOGRAPH. 一名嗜好及性質之記録』	高木壬太郎編輯	〈擁萬堂(三浦定吉)〉	M21. 3. 5
智識ヲ得ルノ法(承前)	高 木 壬 太 郎	静岡青年会雑誌	M21. 8.22
[雑報] 隨筆二則	秋 紅 散 史	禁 酒 雜 誌	M23. 5.15
[社説] 天賜相異なり 未見	秋 紅 散 史	護 教	M24.10. 3
[寄書] 井上活泉先生	東 海 生	護 教	M25. 6. 4
[寄書] 君権は神権なりと云ふ主義に就て 原田助君に質す	東 海 生	護 教	M25. 6.18
[講壇] 寿命の黙想	高 木 壬 太 郎	護 教	M25. 8.20
[特別寄書] 信任論	秋 紅 散 史	護 教	M25.12.10
[論叢] 実業界の伝道	高 木 東 海	護 教	M26. 1. 7
[論叢] 内海正紀氏に答ふ	高 木 東 海	護 教	M26. 2.11
[雑録] [伝道用書籍の指定]	高 木 壬 太 郎	基 督 教 新 聞	M26. 8.11
[講壇] 無益の追悔	高 木 壬 太 郎	護 教	M26. 8.12
[雑録] ジョン, バンヤン自伝 (緒言 第一章)	秋 紅 生 訳	聖書之友雑誌	M27.11.26
[静思] ゲツセマネの杯	東 海 生	聖書之友雑誌	M27.12.20
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第二回)	秋 紅 生 訳		
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第三回)	秋 紅 生 訳	聖書之友雑誌	M28. 1.24

高木壬太郎 著作目録

[雑録] 随録	東 海 生	聖書之友雑誌	M28. 2 .18
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第四回)	秋 紅 生 訳		
[論説] 自由思想と精神的宗教	た 、 み	聖書之友雑誌	M28. 3 .25
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第五回)	秋 紅 生 訳		
[論説] 基督教の倫理 (上)	た 、 み	聖書之友雑誌	M28. 4 .22
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第六回)	秋 紅 生 訳		
[信仰之友] 柔なる舌	か ん ど う 述		
[聖書之友] 平凡の生涯	た 、 み	聖書之友雑誌	M28. 5 .27
[論説] 基督教の倫理 (下)	た 、 み		
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第七回)	秋 紅 生 訳		
[信仰之友] 人事天命	か ん ど う 述		
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第八回)	秋 紅 生 訳	聖書之友雑誌	M28. 6 .25
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第九回)	秋 紅 生 訳	聖書之友雑誌	M28. 7 .25
[論説] 予言者但以理	た 、 み 、	聖書之友雑誌	M28. 8 .26
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第十回)	秋 紅 生 訳		
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第十一回)	秋 紅 生 訳	聖書之友雑誌	M28. 9 .16
[信仰之友] 人生の一大時期			
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第十二回)	秋 紅 生 訳	聖書之友雑誌	M28.10.16
[聖書之友] 自己教育		聖書之友雑誌	M28.11.16
[論説] 是々非々	た 、 み 、		
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第十三回)	秋 紅 生 訳		
[聖書之友] 宗教的基督教	高 木 壬 太 郎	聖書之友雑誌	M28.12.16
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第十四回)	秋 紅 生 訳		
[論説] 基督と青年 其一	た 、 み 、	聖書之友雑誌	M29. 1 .18
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第十五回)	秋 紅 生 訳		
[聖書之友] 聖書を研究すべし (基督教徒 に向ての勧め)	た 、 み 、	聖書之友雑誌	M29. 2 .17
[論説] 基督教会と青年 其二	た 、 み 、		
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第十六回)	秋 紅 生 訳		
[論説] 近世思想海の潮流と基督教徒の信 仰	た 、 み 、	聖書之友雑誌	M29. 3 .16
[雑録] 聖書の研究に就きて	た 、 み 、		

高木壬太郎 著作目録

[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第十七回)	秋 紅 生 訳			
[聖書之友] 使徒時代に於ける哥林多教会	た、み、生	聖書之友雑誌		M29.4.16
[雑録] 聖書の研究に就きて(承前)	た、み、			
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第十八回)	秋 紅 生 訳			
[論説] 聖書研究者の枝折	秋 紅 生	聖書之友雑誌		M29.6.16
[雑録] 聖書之友雑誌紙上, 見漢詩数首, 次其韻書懷	東 海 生			
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第十九回)	秋 紅 生 訳			
[論説] 馬可福音書	秋 紅 生	聖書之友雑誌		M29.7.16
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第二十回)	秋 紅 生 訳			
[論説] 路加福音書	秋 紅 生	聖書之友雑誌		M29.8.17
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第廿一回)	秋 紅 生 訳			
[通信] 北米加那陀宗事情	高 木 壬 太 郎			
[論説] 約翰福音書(上)		聖書之友雑誌		M29.10.16
[雑録] 日夜漫步	東 海 生			
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第廿二回)	秋 紅 生 訳			
[論説] 約翰福音書(中)	秋 紅 生	聖書之友雑誌		M29.11.16
[雑録] 具翁長寿の秘訳	秋 紅 生			
[雑録] 片々	た、み、			
[史伝] ジョン, バンヤン自伝 (第廿三回)	秋 紅 生 訳			
[寄書] 小言二則	秋 紅 生	護 教		M30.2.6
[論説] 加奈陀宗教界の近事	高 木 壬 太 郎	護 教		M30.8.28
[寄書] 加奈陀雁信(承前)	高 木 壬 太 郎	護 教		M31.7.23
[寄書] 加奈陀雁信(承前)	高 木 壬 太 郎	護 教		M31.7.30
[寄書] 加奈陀雁信(片々)	高 木 壬 太 郎	護 教		M31.8.6
[開書] 加那太メソヂスト教会総会に於ける 日本伝道問題。日本メソヂスト 教会員諸君に報ず。	高 木 壬 太 郎	護 教		M31.10.29
基督の基督論	高 木 壬 太 郎	新 世 紀		M32.3.15
[小品集] 愛山詞兄に贈るの書	高 木 壬 太 郎	信濃毎日新聞		M32.6.14
[講壇] 無欲速	高 木 壬 太 郎	護 教		M32.7.1
[講壇] 無欲速(承前)	高 木 壬 太 郎	護 教		M32.7.8

高木壬太郎 著作目録

[雑録]	高木氏の加那太人論(同氏より寄せられたる中央会堂月報より抄す)		護	教	M32.10.7
[論説]	説教者の準備(説教学講義の一節)	高木壬太郎	護	教	M32.10.28
[論説]	過去百年間に於ける基督教の進歩	高木壬太郎	護	教	M32.12.9
[論説]	過去百年間に於ける基督教の進歩(前号の続)	高木壬太郎	護	教	M32.12.16
[論説]	猶太に於ける家族的生活	高木壬太郎	護	教	M32.12.23
[論説]	予言者の学校(神学校の事業を助くべし)	高木壬太郎	護	教	M33.2.3
[論説]	予言者の学校(承前)	高木壬太郎	護	教	M33.2.10
[論説]	金銭と基督教	高木壬太郎	護	教	M33.3.10
[論説]	金銭と基督教(承前)	高木壬太郎	護	教	M33.3.17
[家庭]	マルテン、ルーテル 家庭の生活一斑	高木壬太郎	た、み		M33.4.14
[論説]	使徒保羅と哲学(哥林多書一章より四章に至る研究)	高木壬太郎	護	教	M33.5.5
[論説]	使徒保羅と哲学(承前)	高木壬太郎	護	教	M33.5.12
[教報]	◎日本メソヂスト東京部会	高木氏			
[論説]	使徒保羅の倫理説	高木壬太郎	護	教	M33.6.9
[論説]	使徒保羅の倫理説(承前)	高木壬太郎	護	教	M33.6.16
[家庭]	耶蘇の母馬利亞	秋紅生	護	教	M33.10.27
[護教]	今日の講壇	た、み、	護	教	M33.11.3
[講壇]	模範的生活	高木壬太郎			
[家庭]	基督の母馬利亞(前号の続き)	秋紅生			
[護教]	宗教的基督教	た、み、	護	教	M33.11.10
[講壇]	模範的生活(承前)	高木壬太郎			
[護教]	静かなる動作	た、み、	護	教	M33.11.24
[論説]	歴史に於ける基督	高木壬太郎	護	教	M33.12.15
[雑録]	約百紀に就て(一)	高木秋紅	護	教	M33.12.29
[護教]	新世紀を迎ふ	高木生	護	教	M34.1.5
[雑録]	約百紀に就て(二)	高木秋紅			
[雑録]	約百紀に就て(三)	高木秋紅	護	教	M34.1.19

[講壇] 基督教の大人	高木壬太郎	護	教	M34.2.9
[護教] 「明日の宗教」(一)	高木壬太郎	護	教	M34.2.23
[護教] 「明日の宗教」(二)	高木壬太郎	護	教	M34.3.2
[護教] 「明日の宗教」(三)	高木壬太郎	護	教	M34.3.9
[護教] 「明日の宗教」(四)	高木壬太郎	護	教	M34.3.16
[護教] 「明日の宗教」(五)	高木壬太郎	護	教	M34.3.23
[講壇] 霊の果	高木壬太郎	護	教	M34.4.6
[護教] 「明日の宗教」(六)	高木壬太郎	護	教	M34.4.20
[論説] 使徒保羅の書翰(上)	秋紅生	護	教	M34.5.4
[論説] 使徒保羅の書翰(下)	秋紅生	護	教	M34.5.11
[講壇] 青年なる説教者	高木壬太郎	護	教	M34.6.1
[護教] 就任の辞	高木壬太郎	護	教	M34.7.6
[護教] 求むる者なきに非ず、伝ふる者なき也。・聖書の謙遜・博士カツクランの性行				
[聖書之研究] 聖書研究案内(一)				
[護教] 基督教諸派合同の気運・今後の事業・新生に於ける三個の異りたる経験		護	教	M34.7.13
[雑録] 机上雑纂	秋紅生			
[聖書之研究] 聖書研究案内(二)	高木壬太郎			
[護教] 聖書の悔改・我父の家(一)		護	教	M34.7.20
[聖書之研究] 聖書研究案内(三)	高木壬太郎			
[雑録] 机上雑纂	秋紅生			
[護教] 我父の家(二)・精神的倨傲		護	教	M34.7.27
[聖書之研究] 聖書研究案内(四)				
[護教] 我父の家(三)・休養の利益		護	教	M34.8.3
[護教] 我父の家(四)		護	教	M34.8.10
[護教] 基督教会の任務・英米講壇の調子(一)		護	教	M34.8.17
[護教] 英米講壇の調子(二)		護	教	M34.8.24
[護教] 曲れる邪なる時代		護	教	M34.8.31

[護教] 基督教とは何ぞや(一)・モルモン 宗の来朝に就て				護	教	M34.9.7
[雑録] 小言	秋	紅	生			
[護教] 基督教と時代の問題・理義の念 と感情・基督教とは何ぞや(二)				護	教	M34.9.14
[雑録] 『一年有半』を読む	秋	紅	生			
[護教] 秋期の運動・大挙伝道と一致の精 神・基督教とは何ぞや(三)				護	教	M34.9.21
[護教] 何が故に廃芸妓運動起らざる・生 は死よりも真面目ならざる可ら ず・基督教とは何ぞや(四)				護	教	M34.9.28
[護教] メソヂスト諸派合同問題・基督教 とは何ぞや(五)				護	教	M34.10.5
[静思] フレデリツキ、ロボルトソンの書 翰	秋	紅	生			
[護教] 約翰の宗教・基督教とは何ぞや (六)				護	教	M34.10.12
[講壇] 己が救を全ふせよ	記		者			
[護教] メソヂスト教会諸派合同委員会の 評決				護	教	M34.10.19
[講壇] 文字と精神	記		者			
[研究] 靈魂の不滅	記		者			
[護教] 実験的宗教・基督教とは何ぞや (七)				護	教	M34.10.26
[研究] 靈魂の不滅(二)						
[護教] 基督教の最大使命・基督教とは何 ぞや(八)				護	教	M34.11.2
[研究] 靈魂の不滅						
[静思] フレデリツキ、ロボルトソンの書 簡						
[護教] 人生の一大時期(上)(青年に告 ぐ)・基督教とは何ぞや(九)				護	教	M34.11.9

[護教] 人生の一大時期(下)(青年に告ぐ)・基督教とは何ぞや(十)	護	教	M34.11.16
[研究] 靈魂の不滅			
[護教] 祈祷・基督教とは何ぞや(十一)	護	教	M34.11.23
[護教] 宗教と科学(上)・基督教とは何ぞや(十二)	護	教	M34.11.30
[研究] 靈魂の不滅			
[護教] 宗教と科学(下)・基督教とは何ぞや(十三)	護	教	M34.12.7
[護教] サタン, サタンを逐出すことを得んや・人生の危機・神の家族・基督教とは何ぞや(十四)	護	教	M34.12.14
[護教] 基督降誕節と吾人が基督に対する態度・基督教とは何ぞや(十五)	護	教	M34.12.21
[護教] 明治卅四年を送る・基督教とは何ぞや(十六)	護	教	M34.12.28
[研究] 靈魂の不滅			
[護教] 明治卅五年と護教・明治三十四年の概観・基督教とは何ぞや(十七)	護	教	M35.1.4
[護教] 神の王国と基督教徒の理想(上)・基督教とは何ぞや(十八)	護	教	M35.1.11
[研究] 靈魂の不滅			
[雑録] (評論の評論) 新神学			
[護教] 神の王国と基督教徒の理想(中)・基督教とは何ぞや(十九)	護	教	M35.1.18
[雑録] (評論の評論) 海老名弾正氏の三位一体論			
[護教] 神学校の事業と比較宗教学・基督教とは何ぞや(二十)	護	教	M35.1.25
[雑録] (評論の評論) 海老名弾正氏の三位一体論			
[護教] 神の王国と基督教徒の理想(下)・	護	教	M35.2.1

基督教とは何ぞや(廿一)			
[雑録] (評論の評論) 海老名弾正氏の三位 一体論(三)			
[護教] 神学校の事業と比較宗教学(二)・ 基督教とは何ぞや(廿二)	護	教	M35. 2. 8
[雑録] (評論の評論) 海老名弾正氏の三位 一体論(四)			
[護教] 時代の要求と基督教(上)・基督教 とは何ぞや(廿三)	護	教	M35. 2. 15
[雑録] (評論の評論) 海老名弾正氏の三位 一体論(五)			
[護教] 時代の要求と基督教(中)・基督教 とは何ぞや(廿四)	護	教	M35. 2. 22
[雑録] (評論の評論) 海老名弾正君			
[護教] 時代の要求と基督教(下)・基督教 とは何ぞや(廿五)	護	教	M35. 3. 1
[雑録] (評論の評論) 海老名弾正氏の三位 一体論(六)			
[護教] 基督の教訓は実際に行はれ難きも のなるか・基督教とは何ぞや(廿 六)	護	教	M35. 3. 8
[雑録] (評論の評論) 海老名弾正氏の三位 一体論(七)			
[護教] 智識と宗教(上)	護	教	M35. 3. 15
[雑録] (評論の評論) 海老名弾正氏の三位 一体論(八)・三位一体論の反響			
[護教] 智識と宗教(下)	護	教	M35. 3. 22
[雑録] (評論の評論) 海老名弾正氏の三位 一体論(九)			
[護教] 来るべき総選挙と基督教徒	護	教	M35. 3. 29
[研究] 羅馬書講義(一)	護	教	M35. 3. 29
[雑録] (評論の評論) 海老名弾正氏の三位			

高木壬太郎 著作目録

一体論(十)			
〔護教〕 基督の復活		護 教	M35.4.5
〔研究〕 羅馬書講義(二)			
海老名弾正氏の三位一体論	高木壬太郎	福永文之助編『海老名氏の基督論及び諸家の批評文基督論集』(警醒社書店)	M35.4.8
〔護教〕 メソヂスト諸派合同の議に就て		護 教	M35.4.12
〔研究〕 羅馬書講義(三)			
〔護教〕 攻手異論斯害也已・再び合同問題に就て		護 教	M35.4.19
〔護教〕 福音同盟会に就て		護 教	M35.4.26
〔研究〕 羅馬書講義(四)			
〔雑録〕 模範的医師	秋 紅 生		
〔護教〕 大挙伝道に就て		護 教	M35.5.3
〔研究〕 羅馬書講義(五)			
〔護教〕 無題録	秋 紅 生	護 教	M35.5.10
〔研究〕 羅馬書講義			
〔雑録〕 模範的医師(前々号の続き)	秋 紅 生		
〔護教〕 化身論(一)		護 教	M35.5.17
〔研究〕 羅馬書講義			
〔護教〕 化身論(二)		護 教	M35.5.24
『基督教とは何ぞや』	ハーナツク博士著 高木壬太郎訳註	〈警醒社書店〉	M35.5.25
〔護教〕 化身論(三)		護 教	M35.5.31
〔護教〕 化身論(四)		護 教	M35.6.7
〔護教〕 信徒の牧師に対する徳		護 教	M35.6.14
〔研究〕 羅馬書講義			
〔護教〕 常識と基督教徒と		護 教	M35.6.21
〔護教〕 基督教徒の特徴(説教筆記)(余は如何にして余の基督教徒たるを知るや)		護 教	M35.6.28

高木壬太郎 著作目録

[護教] 平凡の福音		護	教	M35.7.5
[研究] 羅馬書講義				
[護教] 平凡の福音(前号の続き)		護	教	M35.7.12
[護教] 教会は家庭也		護	教	M35.7.19
[研究] 羅馬書講義				
[護教] 進歩派と正統派		護	教	M35.7.26
[護教] 懷疑		護	教	M35.8.2
[護教] 宗教の根本義		護	教	M35.8.9
[研究] 羅馬書講義				
[雑録] 星				
[護教] 宗教の超絶的性質		護	教	M35.8.16
[研究] 羅馬書講義				
[護教] 先づ神を愛せよ		護	教	M35.8.23
[護教] 理想の聴衆		護	教	M35.8.30
[護教] 信神の最大動機		護	教	M35.9.6
[雑録] 神戸急行の記	高 木 生			
[護教] 其本に帰れ		護	教	M35.9.13
[護教] 品性の証明		護	教	M35.9.20
[講壇] 感化の力	記 者			
[護教] 異教に対する態度		護	教	M35.9.27
[講壇] 感化の力(前号の続き)	記 者			
[護教] 靈の眼を開くべし		護	教	M35.10.4
[護教] 罪なき者之を撃つべし		護	教	M35.10.11
[護教] 誰れか我国を教化すべきか		護	教	M35.10.18
[護教] 果して誰の責ぞ(青年信徒の中より伝道者の起らざるは)		護	教	M35.10.25
[護教] 他の理由(青年信徒の中より伝道者の起らざる)		護	教	M35.11.1
[護教] 起て、青年の信徒よ		護	教	M35.11.8
[護教] 如何にして宗教の必要を感じべきや		護	教	M35.11.15
[護教] 基督教的品性(一)(緒論)		護	教	M35.11.22

〔護教〕 基督教的品性(二)(謙遜)		護	教	M35.11.29
〔護教〕 基督教的品性(三)(悲観)		護	教	M35.12.6
〔護教〕 宗教家分業の必要・基督教的品性 (四)(柔和 其上)		護	教	M35.12.13
〔護教〕 主耶穌基督		護	教	M35.12.20
〔護教〕 明治三十五年を送る・基督教的品性 (五)(柔和 其下)		護	教	M35.12.27
〔論説〕 井上博士の釈迦牟尼伝を読む(其一)	高木壬太郎	独	立 評 論	M36.1.1
〔護教〕 新年を迎ふ・明治三十五年の概観		護	教	M36.1.3
〔護教〕 生ける教訓(教科書事件の疑獄)・ 基督教的品性(六)(義を慕ふ事 其上)		護	教	M36.1.10
〔護教〕 浅薄なる宗教・基督教的品性(七) (義を慕ふ事 其下)		護	教	M35.1.17
〔護教〕 愛(基督教的品性説教第六回)		護	教	M36.1.24
〔護教〕 官学の弊を助長せしむる勿れ		護	教	M36.1.31
〔論説〕 井上博士の釈迦牟尼伝を読む(其二)	高木壬太郎	独	立 評 論	M36.2.1
〔護教〕 清き心(基督教的品性説教第七回)		護	教	M36.2.7
〔護教〕 健全なる宗教・清き心(二)(基督教的 品性第七回)		護	教	M36.2.14
〔護教〕 神の子は争はず(基督教的品性説教 第八回)		護	教	M36.2.21
〔講演〕 劈頭の祈祷 未見	高木壬太郎	基	督 教 界	M36.2.25
〔護教〕 信仰の根拠		護	教	M36.2.28
〔論説〕 井上博士の釈迦牟尼伝を読む(其三)	高木壬太郎	独	立 評 論	M36.3.3
〔護教〕 無題録		護	教	M36.3.7
〔護教〕 教役者修養会・全国基督信徒大会		護	教	M36.3.14
〔護教〕 火山の破裂・青森県の飢饉・義人の 受くべき運命(基督教的品性説教		護	教	M36.3.21

第九回)			
[護教] 基督教徒の目的		護 教	M36. 3. 28
[護教] 教会以外の教会		護 教	M36. 4. 4
[論説] トルストイ伯の宗教(加藤直士氏訳 『我宗教』を讀みて)		独 立 評 論	M36. 4. 10
[護教] 基督の復活		護 教	M36. 4. 11
[護教] 基督教徒の動機・品性の修養(基督 教的品性説教第十回)		護 教	M36. 4. 18
[護教] ウェスレー降誕二百年の紀念		護 教	M36. 4. 25
[護教] 全心の活動		護 教	M36. 5. 2
[静思] ウェスレーの書翰			
[護教] 一步を転ぜよ		護 教	M36. 5. 9
[講壇] 葡萄園の喩	記 者		
[雑録] 巢鴨に於ける半日	秋 紅 生		
[護教] 人の批判		護 教	M36. 5. 16
[雑録] ジョン、ウェスレー小伝(一)			
[護教] 実業者間の伝道		護 教	M36. 5. 23
[雑録] ジョン、ウェスレー小伝(二)			
[護教] 過慮と過労と		護 教	M36. 5. 30
[雑録] ジョン、ウェスレー伝(三)			
[護教] 自愛自重		護 教	M36. 6. 6
[雑録] ジョン、ウェスレー伝(四)			
[護教] 道邇きに在り(日常の生活に於ける 宗教)		護 教	M36. 6. 13
[護教] 基督の楽天觀		護 教	M36. 6. 20
[護教] ジョン、ウェスレー誕生二百年に 会して		護 教	M36. 6. 27
[護教] ウェスレー伝の教訓		護 教	M36. 7. 4
[護教] 基督教とメソヂズムと		護 教	M36. 7. 11
[護教] 愛神と愛人と		護 教	M36. 7. 18
[護教] 社会の要求と宗教家の覚悟		護 教	M36. 7. 25
[護教] 基督教文学を盛にすべし		護 教	M36. 8. 1

高木壬太郎 著作目録

[護教] 夏期学校に就て		護	教	M36.8.8
[護教] 新島襄先生伝を読む		護	教	M36.8.15
[護教] 夏雲・夕陽・哲学・教会・音楽		護	教	M36.8.22
[護教] 煩悶の時代・文部省廃止説に就て		護	教	M36.8.29
[論説] 人生問題の研窮に就て	高木壬太郎	独	立	評
[護教] 進撃的態度を取るべし・ウエスレー 一紀念の運動・精神的引力		護	教	M36.9.3
[護教] 神聖なる道楽・人生の重荷		護	教	M36.9.5
[護教] 虚勢を張る勿れ・如何にして真理 を知るを得べき乎		護	教	M36.9.12
[護教] 真理は常に味方を有す・成功とは 何ぞや		護	教	M36.9.19
[護教] 神学上の論争・幸福とは何ぞや		護	教	M36.9.26
[護教] 灯火親可・宗教と身体		護	教	M36.10.3
[護教] 妄りに喜ぶ勿れ・妄りに憂ふる勿 れ		護	教	M36.10.10
[講壇] 基督の不信	記	者		
[護教] 戦争と基督教徒・合同問題を忘 る、勿れ		護	教	M36.10.17
[講壇] 天国は近けり	記	者		
[護教] 伝記を学ぶべし		護	教	M36.10.24
[講壇] 此の如き時の為め也				
[護教] 根本的相違を没了する勿れ		護	教	M36.10.31
[雑録] 入峽の記	秋	紅	生	
『ジヨン・ウエスレー伝』	高木壬太郎			〈警醒社書店〉
[護教] 曖昧模糊なる可らず・パーワツシ 博士遂に来らず		護	教	M36.11.7
[研究] 新約文学序論				
[雑録] 相良紀行	秋	紅	生	
[護教] 隷属的氣運を一洗すべし		護	教	M36.11.13
[研究] 新約文学序論				
[雑録] 長野紀行	秋	紅	生	
				M36.11.14
				M36.11.21

[護教] 宗教の最大目的		護	教	M36.11.28
[研究] 新約文学序論				
[論説] 井上文学博士の答弁を読む	高木壬太郎	独 立 評 論		M36.12.3
[護教] 安息日同盟会		護	教	M36.12.5
[講壇] 安息日に就て	記 者			
『基督教的品性』	高木壬太郎	〈教 文 館〉		M36.12.7
[護教] 自由、独立、濶大		護	教	M36.12.12
[研究] 新約文学序論(三)				
[家庭] 小愛国者	太 忙 生 訳			
[護教] 馬槽の教訓		護	教	M36.12.19
[護教] 明治三十六年を送る		護	教	M36.12.26
[護教] 回顧と希望		護	教	M37.1.2
[研究] 新約文学序論(四)				
[家庭] 小基督	太 忙 生 訳			
[護教] 思想の革新		護	教	M37.1.9
[研究] 新約文学序論(五)				
[家庭] 小基督(中)	太 忙 生 訳			
[護教] 献身の精神を励すべし		護	教	M37.1.16
[研究] 新約文学序論(六)				
[家庭] 小基督(下)	太 忙 生 訳			
[雑録] 新約文学序論(護教より転載)	高木壬太郎	聖書之友雑誌		M37.1.20
[護教] 信徒の積極的要性		護	教	M37.1.23
[研究] 新約文学序論(七)				
[雑録] 瑣事に忠実なれ	太 忙 生 訳			
[護教] 教会の使命		護	教	M37.1.30
[研究] 馬太福音書(上)				
[護教] 約百紀論		護	教	M37.2.6
[研究] 馬太福音書(下)				
[護教] 戦争の開始・約百紀論(二)		護	教	M37.2.13
[研究] 馬可福音書(上)				
[護教] 吾人は何を為すべきか・約百紀論 (三)		護	教	M37.2.20

高木壬太郎 著作目録

〔雑録〕 編輯小言			
〔雑録〕 新約文学序論	高木壬太郎	聖書之友雜誌	M37. 2. 20
『宗教小観』	高木壬太郎	〈教文館〉	M37. 2. 26
〔護教〕 約百紀論(四)		護 教	M37. 2. 27
〔護教〕 約百紀論(五)		護 教	M37. 3. 5
〔雑録〕 神の愛	太忙生訳		
〔護教〕 時局に関する或人の問に答ふる書・約百紀論(六)			
〔護教〕 伝道上の勝利を謀るべし・約百紀論(七)		護 教	M37. 3. 19
〔雑録〕 新約文学序論	高木壬太郎	聖書之友雜誌	M37. 3. 20
〔護教〕 禁酒事業拡張の好時期・基督教と国家的観念		護 教	M37. 3. 26
〔護教〕 不健全の思想、不健全の言動を斥くべし		護 教	M37. 4. 2
〔研究〕 基督復活に関する諸説			
〔護教〕 誤りたる勤儉論・所謂非戦論者を戒む		護 教	M37. 4. 9
〔護教〕 事実の上に立つべし		護 教	M37. 4. 16
〔雑録〕 新約文学序論	高木壬太郎	聖書之友雜誌	M37. 4. 20
〔護教〕 福音同盟会の事業を助くべし		護 教	M37. 4. 23
〔護教〕 禍転為福論		護 教	M37. 4. 30
〔護教〕 先後論		護 教	M37. 5. 7
〔講壇〕 此も彼も	記 者		
〔護教〕 戦時伝道同志会設立の議		護 教	M37. 5. 14
〔講壇〕 無信の信徒、信徒の無信	記 者		
〔雑録〕 新約文学序論	高木壬太郎	聖書之友雜誌	M37. 5. 20
〔護教〕 今一層慎重なるを要す		護 教	M37. 5. 21
〔護教〕 平民道の宣伝		護 教	M37. 5. 28
〔護教〕 朝鮮伝道に就て		護 教	M37. 6. 4
〔研究〕 聖書の鑰語			
〔護教〕 無題録		護 教	M37. 6. 11

高木壬太郎 著作目録

[研究] 聖書論語				
[護教] 牧者の精神的資格		護	教	M37.6.18
[研究] 聖書論語				
[護教] 偉大なる説教		護	教	M37.6.25
[研究] 聖書論語				
[護教] 瑣言三則		護	教	M37.7.2
[研究] 聖書論語				
[護教] 勝利と教育		護	教	M37.7.9
[講壇] 無名の弟子				
[研究] 聖書論語				
[護教] 輿論を一変すべし		護	教	M37.7.16
[研究] 聖書論語(腓利比書)				
[護教] 読む所を慎むべし		護	教	M37.7.23
[研究] 聖書論語(哥羅西書)				
[護教] 教会をして實際社会に近接せしむべし		護	教	M37.7.30
[護教] 教育ある信徒の教会に無頓着なる理由(一)		護	教	M37.8.6
[研究] 聖書論語(帖撒羅尼加書)				
[護教] 教育ある信徒の教会に無頓着なる理由(二)		護	教	M37.8.13
[研究] 聖書論語(提摩太前後書)				
[護教] 教育ある信徒の教会に無頓着なる理由(三)		護	教	M37.8.20
[護教] 教育ある信徒の教会に無頓着なる理由(四)		護	教	M37.8.27
[雑録] 無題録	秋	紅	生	
[護教] 教育ある信徒の教会に無頓着なる理由(五)		護	教	M37.9.3
[講壇] 忘却論				
[護教] 教育ある信徒の教会に無頓着なる理由(六)・南美以教会年会の決議		護	教	M37.9.10

[護教] 秋期の運動・田舎雑感	護	教	M37.9.17
[護教] 恃む可らざるものを持む勿れ	護	教	M37.9.24
[研究] 聖書論語(提多書)			
[護教] 説教の用語・田舎雑感(承前)	護	教	M37.10.1
[護教] 基督信徒の神聖	護	教	M37.10.8
[研究] 聖書論語(腓利比書)			
[護教] 婦人教化の必要	護	教	M37.10.15
[護教] 幼稚なる聴衆	護	教	M37.10.22
[研究] 聖書論語(希伯來書)			
[護教] 少壮者の時代	護	教	M37.10.29
[講壇] 善き人と有用なる人と			
[研究] 聖書論語(彼得前後書約翰一書)			
[護教] 研究と信仰	護	教	M37.11.5
[研究] 聖書論語(約翰二、三書猶太書)			
[護教] 聖書研究に対する注意	護	教	M37.11.12
[研究] 聖書論語(黙示録)			
[護教] 予言者の必要(説教筆記)	護	教	M37.11.19
[研究] 詩篇講義(一)・贖罪論に関する近時の争論			
[護教] 無頓着の風潮(熱心の真偽)	護	教	M37.11.26
[研究] 詩篇講義(二)・贖罪論に関する近時の争論(二)			
[護教] 今日の憂(敬畏の念乏し)	護	教	M37.12.3
[研究] 詩篇講義(三)・贖罪論に関する近時の争論(三)			
[護教] 教会合同の時機・第一歩に止る可らず	護	教	M37.12.10
[研究] 詩篇講義(第一編)・贖罪論に関する近時の争論(四)			
[護教] 旧式の思想・旧式の伝道法	護	教	M37.12.17
[研究] 詩篇講義(第二編)・贖罪論に関する近時の争論(五)			

高木壬太郎 著作目録

[護教] 生誕節を祝して(戦時の生誕節)		護	教	M37.12.24
[研究] 詩篇講義(第二編 承前)				
[護教] 戦闘的態度を取るべし		護	教	M38.1.2
[研究] 詩篇講義・贖罪論に関する近時の争論(六)				
[護教] 攻守同盟		護	教	M38.1.7
[研究] 詩篇講義(第四編)				
[護教] 秩序ある生活(説教筆記)		護	教	M38.1.14
[研究] 詩篇講義(第五編)・贖罪論に関する近時の争論(七)				
[護教] 攻守同盟(再び)		護	教	M38.1.21
[研究] 詩篇講義				
[護教] 活動的宗教		護	教	M38.1.28
[研究] 詩篇講義(第七編)・贖罪論に関する近時の争論(八)				
[護教] 教会気風論・博士デー、マクドナルド氏逝く		護	教	M38.2.4
[研究] 詩篇講義				
[護教] 青年自ら事を為すべし		護	教	M38.2.11
[研究] 詩篇講義(第八編)				
[雑録] 故マクドナルド博士の事	高木壬太郎			
[護教] 宗教家の自重		護	教	M38.2.18
[研究] 詩篇講義(第八編)				
[護教] 前途尚遠し		護	教	M38.2.25
[講壇] 自由の律法				
[護教] 教育ある信徒と教会と(一)(諸氏返翰の後に跋す)		護	教	M38.3.4
[研究] 詩篇講義(第九編 上)				
[護教] 教育ある信徒と教会と(二)		護	教	M38.3.11
[研究] 詩篇講義(第九編 下)				
[説教] 敬神か愛人か	高木壬太郎	基督教講壇		M38.3.15
[護教] 教育ある信徒と教会と(三)		護	教	M38.3.18

[講壇] 死者に死者を葬らせよ			
[研究] 詩篇講義(第十編 上)			
[護教] 市内メソヂスト教会の運動・教育 ある信徒と教会と(四)	護	教	M38. 3 .25
[講壇] 眞実は沈黙す			
[研究] 詩篇講義(第十編 下)			
[護教] 教育ある信徒と教会と(五)	護	教	M38. 4 . 1
[講壇] 神の律法と人の律法			
[護教] 教育ある信徒と教会と(六)	護	教	M38. 4 . 8
[講壇] 自己教育			
[研究] 詩篇講義(第十一編)			
[護教] 孔子論を読む	護	教	M38. 4 .15
[講壇] 基督教と貧富の問題			
[研究] 詩篇講義			
[護教] 教育ある信徒と教会と(七)	護	教	M38. 4 .22
[講壇] 基督教徒の証拠			
[護教] 教育ある信徒と教会と(八)	護	教	M38. 4 .29
[護教] 教役者に対する不満(教育ある信徒 と教会との九)・米国宗教界に於る 一珍事(ロツクフェラーの寄付金に 対する抗議)	護	教	M38. 5 . 6
[護教] 皇室と基督教と	護	教	M38. 5 .13
[講壇] 基督なき人			
[護教] 講壇に対する苦情(上)(教育ある信 徒と教会との十)	護	教	M38. 5 .20
[護教] 講壇に対する苦情(下)	護	教	M38. 5 .27
[護教] 向上の機(説教筆記)	護	教	M38. 6 . 3
[護教] 教会気風論(上)(教育ある信徒と教 会との十二)	護	教	M38. 6 .10
[護教] 教会気風論(中)(教育ある信徒と教 会との十三)	護	教	M38. 6 .17
[護教] 教会気風論(下)(教育ある信徒と教	護	教	M38. 6 .24

高木壬太郎 著作目録

会との十四)				
〔護教〕 教会の組織及び機関に於る不備(教育ある信徒と教会との十五)		護	教	M38.7.1
〔(現代名士壺百家解答) 来世之有無]	高木壬太郎	新 仏	教	M38.7.1
〔護教〕 人物中心論(上)(教育ある信徒と教会との十六)		護	教	M38.7.8
〔護教〕 人物中心論(下)(教育ある信徒と教会との十七)		護	教	M38.7.15
〔雑纂〕 [諸名家愛誦の聖句及び讚美歌]	高木壬太郎	聖書講義録		M38.7.15
〔護教〕 基督教主義学校論(上)(教育ある信徒と教会との十八)		護	教	M38.7.22
〔護教〕 基督教主義学校論(中)(教育ある信徒と教会との十九)		護	教	M38.7.29
〔護教〕 基督教主義学校論(下)(教育ある信徒と教会との廿)		護	教	M38.8.5
〔来世の有無]	高木壬太郎	新仏教徒同志会編		M38.8.8
〔護教〕 基督教主義大学設立の議(上)		護	教	M38.8.12
〔雑録〕 読書余録	秋 紅 生			
〔護教〕 基督教主義大学設立の議(下)		護	教	M38.8.19
〔雑録〕 読書余録	秋 紅 生			
〔護教〕 神学校論(上)		護	教	M38.8.26
〔雑録〕 読書余録	秋 紅 生			
〔護教〕 神学校論(中)		護	教	M38.9.2
〔雑録〕 読書余録	秋 紅 生			
〔護教〕 吾人の講和観・バウン博士来朝		護	教	M38.9.9
〔護教〕 神学校論(下)		護	教	M38.9.16
〔護教〕 教役者改善の一法		護	教	M38.9.23
〔護教〕 韓国に於ける教育事業拡張の急務		護	教	M38.9.30
〔講壇〕 豊富なる活力	記 者			
〔護教〕 天下皆誠意なし		護	教	M38.10.7
〔護教〕 愚痴の繰言を止めよ		護	教	M38.10.14

高木壬太郎 著作目録

[護教] 今一層新約全書的なるを要す		護	教	M38.10.21
[護教] 規模を大ならしめよ・日本基督教 会大会		護	教	M38.10.28
[護教] 速に合同問題を解決すべし・謙遜 か不見識か		護	教	M38.11. 4
[護教] 交譲主義を排斥せよ		護	教	M38.11.11
[護教] 再び合同問題を論ず・美以教会教 師諸氏の合同問題に対する運動		護	教	M38.11.18
[護教] 苦言を聞くべし		護	教	M38.11.25
[護教] 品性と事業		護	教	M38.12. 2
[護教] 基督教の弱点		護	教	M38.12. 9
[護教] 不即不離論		護	教	M38.12.16
[護教] 生誕節夢物語		護	教	M38.12.23
[護教] 送歳		護	教	M38.12.30
[護教] 明治三十九年を迎ふ		護	教	M39. 1. 6
[護教] 靈界に於る近時の傾向		護	教	M39. 1.13
[護教] 神子の自覚		護	教	M39. 1.20
[護教] メソヂスト会友社交倶楽部成る		護	教	M39. 1.27
[護教] 教会合同の大勢		護	教	M39. 2. 3
[護教] 日常当行の道		護	教	M39. 2.10
[護教] メソヂスト諸派合同委員の会合・ 恩師の死を追悼して当今の師道に 及ぶ		護	教	M39. 2.17
[護教] 大なる岩陰・合同問題の前途		護	教	M39. 2.24
[護教] 耶蘇基督をおぼえよ・教会の風紀 問題		護	教	M39. 3. 3
[講壇] 標準論	記	者		
[護教] 神人主義と凡人主義と		護	教	M39. 3.10
[講壇] 不平論				
[研究] 馬可伝講義				
[雑録] 神戸行の記	秋	紅	生	
[学生と宗教]	高	木	壬	太郎
	稲	葉	円	成編
	学	生	と	M39. 3.10

高木壬太郎 著作目録

[護教] 是々非々主義・基督教家の不見識		宗教(文明堂)	護教	M39.3.17
[研究] 馬可伝講義				
[講壇] 物外の意義	高木壬太郎	基督教世界	護教	M39.3.22
[護教] 煩悶論		護教	護教	M39.3.24
[護教] メソヂスト諸派の合同と独立問題・煩悶論(中)		護教	護教	M39.3.31
[研究] 馬可伝講義				
[護教] 臆病風を吹かす勿れ・煩悶論(下の上)		護教	護教	M39.4.7
[研究] 馬可伝講義				
[信仰実験談]	高木壬太郎	基督教世界	護教	M39.4.12
[護教] 復活に於ける緊要と付緊要		護教	護教	M39.4.14
[研究] 馬可伝講義				
[護教] 煩悶論(下の下)		護教	護教	M39.4.21
[護教] メソヂスト諸派の独立に就て・福音同盟会大会		護教	護教	M39.4.28
[研究] 馬可伝講義				
[護教] 瑣言数則		護教	護教	M39.5.5
[講壇] 開かるべき祈祷	記者			
[護教] 福音同盟会大会・メソヂスト諸派の合同及び独立・先づ購書の資を供せよ		護教	護教	M39.5.12
[研究] 馬可伝講義				
[護教] 悪鬼と七の悪鬼(説教筆記)		護教	護教	M39.5.19
[護教] 比較宗教の研究		護教	護教	M39.5.26
[雑録] メソヂスト派合同問題の成行				
[雑録] 読書余録	坎堂			
[護教] 我國民の精神的素養		護教	護教	M39.6.2
[雑録] 読書余録	坎堂生			
[護教] 再び比較宗教研究の必要を論じ弁妄に答ふ		護教	護教	M39.6.9

高木壬太郎 著作目録

[護教] 学生戒飭の訓令		護	教	M39.6.16
[雑録] 読書余録	坎 堂 生			
[護教] 宗教の實際的傾向		護	教	M39.6.23
[護教] 自省、自識・変貌の教会		護	教	M39.6.30
[雑録] 読書余録	坎 堂 生			
[夏の修養及び読書]	高木壬太郎	開	拓者	M39.7.1
[護教] 蠟を漉出して駱駝を呑む・メソヂ スト三派合同問題		護	教	M39.7.7
[護教] 考ふべき問題		護	教	M39.7.14
[護教] 研究すべき諸種の問題		護	教	M39.7.21
[護教] メソヂスト三派の合同成立す		護	教	M39.8.4
[護教] 晩香坡より	坎 堂 生	護	教	M39.9.1
[護教] 晩香坡より(再び)	坎 堂 生	護	教	M39.9.8
[新刊紹介] 基督教評論 山路愛山著	た、み 生	護	教	M39.9.15
[護教] トロントより	坎 堂 生	護	教	M39.9.22
[護教] トロントより(再び)	坎 堂 生	護	教	M39.9.29
[護教] トロントより(三たび)(四)	坎 堂 生	護	教	M39.10.6
[護教] モントリオールより(一)(二)	坎 堂 生	護	教	M39.10.20
[護教] モントリオールより(三)	坎 堂 生	護	教	M39.10.27
[護教] トロントより	坎 堂 生	護	教	M39.11.10
[護教] 倫敦より・巴里より	坎 堂 生	護	教	M39.12.15
[護教] 羅馬より・ネーブルスより	坎 堂 生	護	教	M40.1.5
[護教] 澳へ出で網を下して漁れ		護	教	M40.1.26
[護教] 浅薄なる罪惡観		護	教	M40.2.2
[護教] 教会と青年学生と		護	教	M40.2.9
[護教] 或意義に於ける出埃及		護	教	M40.2.16
[護教] 一疑問		護	教	M40.2.23
[万国(学生青年会)大会に対する希望と注 意]	高木壬太郎	開	拓者	M40.3.1
[護教] 耶蘇の罪惡観		護	教	M40.3.2
[護教] 英国宗教界の小波瀾		護	教	M40.3.9
[護教] 英国宗教界の小波瀾(二)		護	教	M40.3.16

高木壬太郎 著作目録

〔雑録〕 〔開書応答〕	高木壬太郎	基督教世界	M40.3.21
〔護教〕 英国宗教界の小波瀾(三)		護教	M40.3.23
〔護教〕 金銀は我になし		護教	M40.3.30
〔護教〕 日本基督教徒に対する批評		護教	M40.4.6
〔護教〕 苦言、忠言・万国学生青年会大会		護教	M40.4.13
〔護教〕 精神を看取すべし		護教	M40.4.20
〔護教〕 福沢諭吉と現時の基督教会		護教	M40.4.27
〔講壇〕 無意識論		護教	M40.5.11
〔護教〕 神学校問題に就て		護教	M40.5.18
〔護教〕 『本多庸一先生説教集』出づ・『回光録』を読む		護教	M40.5.25
〔護教〕 無題録		護教	M40.6.1
〔護教〕 日本メソヂスト教会の組織成り、監督任命せらる		護教	M40.6.8
〔護教〕 総会終りぬ		護教	M40.6.15
〔護教〕 同情論		護教	M40.6.22
〔護教〕 先づ神の国と其義とを求めよ		護教	M40.6.29
〔護教〕 日本メソヂスト教会の条例(一)・平凡の巨人		護教	M40.7.6
〔護教〕 日本メソヂスト教会の条例(二)		護教	M40.7.13
〔護教〕 日本メソヂスト教会の条例(三)		護教	M40.7.20
〔護教〕 読者諸君に別を告ぐ	高木壬太郎	護教	M40.7.27
〔護教〕 日本メソヂスト教会の条例(四)			
進歩的基督教徒の立脚地	高木壬太郎	日本及日本人	M40.9.15
〔新思潮〕 余の所謂日本的基督教	高木壬太郎(談)	ムラサキ	M40.11.1
『基督教安心論』	高木壬太郎	〈杉本梁江堂〉	M41.2.15
〔静思〕 現今基督教思想の趨勢	高木壬太郎	独立評論	M41.3.3
〔静思〕 現今基督教思想の趨勢	高木壬太郎	独立評論	M41.4.3
レツシングの宗教観	高木壬太郎	火柱	M41.4.15
〔宗教〕 基督教会と近代の思想(上)	高木壬太郎	道	M41.5.1
〔静思〕 現今基督教思想の趨勢	高木壬太郎	独立評論	M41.5.3
〔想苑〕 宗教の思想と形式	高木壬太郎	新人	M41.6.1

高木壬太郎 著作目録

[論説] 余裕論	高木壬太郎	六合雑誌	M41.6.1
[宗教] 基督教会と近代の思想(中)	高木壬太郎	道	M41.6.1
[宗教] 基督教会と近代の思想(下)	高木壬太郎	道	M41.7.1
[雑録] 『寸光録』を紹介す	高木壬太郎	護教	M41.7.18
[宗教] 耶蘇の天国観	高木壬太郎	道	M41.8.1
[宗教] [我『道』友の宗教観]	高木壬太郎		
[宗教] 耶蘇の世末観(上)	高木壬太郎	道	M41.9.1
基督教復古学の必要	高木壬太郎	火柱	M41.9.15
女子教育の危機	高木壬太郎	日本及日本人	M41.10.1
[宗教] 耶蘇の世末観(下)	高木壬太郎	道	M41.10.1
[講演] 我国に於ける将来の基督教	高木壬太郎	基督教世界	M41.10.29
[紹介] 女子教育の危機 未見	高木壬太郎	女子教育	M41.11.1
[詞想] 当行の道	高木壬太郎	新人	M41.12.1
[論叢] 我国将来の基督教	高木壬太郎	開拓者	M41.12.1
[雑録] 信仰小話	高木神学博士談	護教	M41.12.19
孔子基督同異論	高木壬太郎	日本及日本人	M42.1.1
[宗教] 耶蘇僧社の歴史を読む	高木壬太郎	道	M42.1.1
[想苑] 神学改造説と復古説	高木壬太郎	新人	M42.3.1
[講壇] 基督教以外の基督教 未見	高木壬太郎	成民	M42.3.15
[論説] 本能主義の真偽	高木壬太郎	六合雑誌	M42.5.1
[開書応答]	高木壬太郎	基督教世界	M42.8.5
[開書応答]	高木壬太郎	基督教世界	M42.9.30
[論説] 経験論の神学を論ず	高木壬太郎	六合雑誌	M42.10.1
宗教学上より見たる宗教異同論	高木壬太郎	日本及日本人	M42.10.15
歴史派の神学を論ず	高木壬太郎	福永文之助編 『回顧二十年』 (警醒社書店)	M42.10.15
[雑録] [如何なる書籍に由て基督教の思想 に接触せしや(一)]	高木壬太郎	護教	M42.10.16
[想苑] 我信仰の立脚地	高木壬太郎	新人	M42.12.1
[講壇] 人生観の基礎	高木壬太郎	護教	M42.12.4
[雑録] (新刊紹介)左近義弼氏 改訳詩篇に	高木壬太郎	護教	M42.12.18

高木壬太郎 著作目録

就て			
〔論説〕 主我と没我	高木壬太郎	六合雑誌	M43.2.1
〔想苑〕 自然及超自然	高木壬太郎	新人	M43.4.1
〔講壇〕 聖書の歴史哲学	高木壬太郎	護教	M43.7.16
〔雑録〕 加奈陀メソヂスト教会三傑の一人、 故サマランド博士	高木壬太郎氏の談		
〔前記者之回想〕 回顧と期望	高木壬太郎	護教	M43.9.24
〔論説〕 宗教小観	高木壬太郎	六合雑誌	M43.10.1
〔想苑〕 基督教に残存せる自然神說的要素	高木壬太郎	新人	M43.10.1
〔評論〕 〔教派合同問題 教界諸先輩の開書 応答〕 実地問題としては不可能	高木壬太郎	新人	M43.12.1
〔基督伝研究〕 耶蘇伝の研究	高木壬太郎	護教	M43.12.24
〔想苑〕 精神的生活の内容	高木壬太郎	新人	M44.1.1
〔論叢〕 耶蘇の宗教と現代の道德	高木壬太郎	開拓者	M44.4.1
〔講壇〕 愚者の用	高木壬太郎	護教	M44.5.27
〔論説〕 至善無意識説	高木壬太郎	六合雑誌	M44.9.1
『基督教大辞典』	高木壬太郎	〈警醒社書店〉	M44.11.13
〔雑録〕 「基督教大辞典」著作の苦心	高木壬太郎氏談	護教	M44.12.16
〔時論〕 基督教大辞典著述苦心談	高木壬太郎	基督教世界	M44.12.28
〔世界の心〕 西人の孫逸仙論・伊太利圧迫 論・南米共和諸国と北米合衆 国との関係・生命と意識・愚 妻選択論	高木壬太郎	国民雑誌	M45.1.1
自ら門出を餞す	高木壬太郎	護教	M45.1.5
宗教の外的必要	高木壬太郎	護教	M45.1.12
〔世界の心〕 独逸陸軍の衰頹・博愛は文明 の敵・女子本分論・メーテル リンク死論の一節	高木壬太郎	国民雑誌	M45.1.15
〔護教〕 宗教の内的必要		護教	M45.1.19
〔護教〕 如何にして敬虔の念を養ふべきや		護教	M45.1.26
〔世界の心〕 英国の衰兆・科学的迷信・科 学に対する反動・第廿世紀思	高木壬太郎	国民雑誌	M45.2.1

高木壬太郎 著作目録

想の傾向				
[教界思潮] [基督教の最も主張すべき二大問題(二) 教学界名士の開書応答] 霊的要求の満足	高木壬太郎	新	人	M45.2.1
[護教] 基督教と他の諸宗教		護	教	M45.2.2
[護教] 新宗教樹立の空想		護	教	M45.2.9
[世界の心] 独逸現時の地位・新政教一致論・仏国の反宗教的傾向・国际上法律の効果	高木壬太郎	国	民 雑 誌	M45.2.15
[護教] 国土論		護	教	M45.2.16
[護教] 円満なる聖人		護	教	M45.2.23
[護教] 宗教的生活		護	教	M45.3.1
[世界の心] 混沌たる一年・伊太利の野心・文明の危機・欧羅巴諸国の墮落	高木坎堂	国	民 雑 誌	M45.3.1
[想苑] 世界に於ける基督教の地位	高木壬太郎	新	人	M45.3.1
[時論] [内務省の三教者合同計画 現代各方面に於ける諸家の意見] 一步を進めたるもの	高木壬太郎	六	合 雑 誌	M45.3.1
[護教] 宗教は裝飾物に非ず・結核病予防に就て		護	教	M45.3.8
[研究] 信仰と神学との區別	記 者			
[世界の心] 英国海軍の欠点・英独の關係・世界最大の偉人・欧州諸国民元氣の衰頹・先づ身体の強健を謀れ	高木坎堂	国	民 雑 誌	M45.3.15
[護教] 如何にして現実に触るゝを得べきや(上)		護	教	M45.3.15
[護教] 如何にして現実に触るゝを得べきや(下)		護	教	M45.3.22
[護教] 本多監督を吊す・本多監督略歴・言外の意義と權威		護	教	M45.3.29
[世界の心] 世界平和の前途如何・英人の雅	高木坎堂	国	民 雑 誌	M45.4.1

量・間諜政策は必要なるか・出生率減少の趨勢				
〔護教〕 追懐		護	教	M45. 4. 5
〔護教〕 新任監督を迎ふ・監督平岩愼保氏略歴		護	教	M45. 4. 12
〔世界の心〕 英国の印度統治策・有害なる文学の流行・偉人とは何ぞ・世界中最も美しき人種	高 木 坎 堂	国 民 雜 誌		M45. 4. 15
〔護教〕 真理と人格		護	教	M45. 4. 19
〔雑録〕 本多庸一先生略歴(二)				
〔護教〕 フェーアベルン博士の事業		護	教	M45. 4. 26
〔雑録〕 本多庸一先生履歴(三)				
〔世界の心〕 近時の独帝・今日の独逸・英国炭坑々夫の同盟罷工・英国の婦人参政権問題・多数政治の弊害				
〔護教〕 實際生活の根柢		護	教	M45. 5. 3
〔雑録〕 本多庸一先生履歴(四)				
〔護教〕 恩寵の最大紀念		護	教	M45. 5. 10
〔世界の心〕 英紙のル氏論・独逸社会党の實力・世界の模範市・米国市政の腐敗	高 木 坎 堂	国 民 雜 誌		M45. 5. 15
〔護教〕 信仰と理性		護	教	M45. 5. 17
〔護教〕 生活理想の変遷		護	教	M45. 5. 24
〔護教〕 現代人生活の理想		護	教	M45. 5. 31
〔世界の心〕 現代生活の危険・人口制限論・独仏諸紙のル氏論・米国新聞紙の趨勢・一英人の露国観	坎 堂 生	国 民 雜 誌		M45. 6. 1
〔護教〕 神と自然との関係		護	教	M45. 6. 7
〔護教〕 霊と肉と・基督教文学に就て		護	教	M45. 6. 14
〔世界の心〕 非文明危機論・人生観の変遷・独人の英独関係論・昨友今敵	坎 堂 生	国 民 雜 誌		M45. 6. 15
〔護教〕 快樂と基督教		護	教	M45. 6. 21

[護教] 基督教と貧富の問題(上)		護 教	M45. 6.28
[世界の心] 英国の貧民問題・婦人参政権問題・教育の理想・英米の交情傷けらる	坎 堂 生	国 民 雑 誌	M45. 7. 1
[護教] 基督教と貧富の問題(下)		護 教	M45. 7. 5
[護教] 信仰の偉大		護 教	M45. 7.12
[世界の心] 忠信哲学・快適なる文学の必要・仏国に於ける育児学の進歩・英仏同盟の議	坎 堂 生	国 民 雑 誌	M45. 7.15
[護教] 唯物論の消長		護 教	M45. 7.19
[雑録] 瑣言録	坎 堂 生		
[護教] 聖上御不例・個人主義的思想の大勢		護 教	M45. 7.26
[世界の心] 意志訓練論・意志訓練論(其二)・英国非同盟論・伊国人の戦争熱	坎 堂 生	国 民 雑 誌	T 1. 8. 1
[護教] 天皇崩御(七月三十日朝)・新帝踐祚(七月三十日朝)		護 教	T 1. 8. 2
[雑録] 瑣言録	坎 堂 生		
[護教] 意志の宗教		護 教	T 1. 8. 9
[護教] 個人主義的思想発達の由来(上)		護 教	T 1. 8.16
[護教] 個人主義的思想発達の由来(下)		護 教	T 1. 8.23
[護教] 個人主義の発達は防止すべからず		護 教	T 1. 8.30
[世界の心] 米国の墮落・英国先王の実伝・欧州現時の大勢・英独の競争	坎 堂 生	国 民 雑 誌	T 1. 9. 1
[教界思潮] [如何に教して基督教を社会に徹底せしむ可きか 教界名士の開書応答] 唯だ最善を尽せ	高 木 壬 太 郎	新 人	T 1. 9. 1
[護教] 我が国民性の欠陥・免囚保護に就て		護 教	T 1. 9. 6
[護教] 敬吊之辞・個人の価値の自覚		護 教	T 1. 9.13
[世界の心] 米国国民教育の失敗・天才と疾患・独逸の野心・仏人の米国婦	坎 堂 生	国 民 雑 誌	T 1. 9.15

人観			
[護教] 乃木大将の自殺・祈祷の効果		護 教	T 1.9.20
[教報] (明治天皇大葬敬弔式) 奉悼之辞	高木壬太郎謹言		
[護教] 自殺論(上)		護 教	T 1.9.27
[神学之研究] 神学現時の傾向	高木壬太郎	神学之研究	T 1.9.30
[世界の心] 日本人可解論・遺伝と人種改 造・婦人参政権の効果・仏国の 覚醒	坎 堂 生	国民雑誌	T 1.10.1
悲観せず楽観せず	高木壬太郎	日本及日本人	T 1.10.1
[護教] 自殺論(下)		護 教	T 1.10.4
[護教] 野人語		護 教	T 1.10.11
[世界の心] 現代戦争論・英米戦争不可能 論・独逸貴族衰亡論・米国婦人 の選挙運動	坎 堂 生	国民雑誌	T 1.10.15
[護教] 伝道の好機を逸する勿れ・憤慨録		護 教	T 1.10.18
[雑録] 基督教と自殺(護教より転載)	高木壬太郎	聖書之友雑誌	T 1.10.20
[護教] 伝道の成果は俄に収め難し・迎合主 義を排せよ		護 教	T 1.10.25
[護教] 我国教育制度の失敗・伝道と修養		護 教	T 1.11.1
[世界の心] 戦争の経済的必要・英土協商 論・米国学生の道徳的状態・人 種製造に対する評論	坎 堂 生	国民雑誌	T 1.11.1
[論説] 自殺論	高木壬太郎	六合雑誌	T 1.11.1
[護教] 基督なき国民		護 教	T 1.11.8
[護教] 神なき国民(上)		護 教	T 1.11.15
[世界の心] 米国民心の変化・米人の乃木大 将自殺観・英国の教育に対する 非難・米国統治下の比律賓諸島	坎 堂 生	国民雑誌	T 1.11.15
[護教] 神なき国民(下)		護 教	T 1.11.22
[護教] 希望なき国民		護 教	T 1.11.29
[世界の心] 高等社会主義・基督教国民の矛 盾・米国新聞紙の俗悪・米国民	坎 堂 生	国民雑誌	T 1.12.1

主義の墮落			
〔基督教各教大綱〕 美以教会の大綱	高木壬太郎	宗教之日本	T 1.12.1
〔護教〕 往きつまりたる徳教		護教	T 1.12.6
〔護教〕 政変と世界の平和		護教	T 1.12.13
〔世界の心〕 第廿世紀の問題(一)・第廿世紀 の問題(二)・米国民党の節制	坎堂生	国民雑誌	T 1.12.15
〔護教〕 平和の曙光		護教	T 1.12.20
〔護教〕 流年惜むに足らず過去は遂に亡び ず		護教	T 1.12.27
〔最近世界思潮論〕 国民の訓練・人生の意 義・巴爾幹戦の宗教的根柢・米国戦 敗政党の将来	坎堂生	国民雑誌	T 2.1.1
イエス伝概評	高木壬太郎	新 人	T 2.1.1
〔元旦号付録〕 ウエースレーの偉業	高木壬太郎	宗教之日本	T 2.1.1
根柢ある信仰	高木壬太郎	女子青年界	T 2.1.1
〔護教〕 大正第一次の新年を迎ふ		護教	T 2.1.3
〔研究〕 敬虔者の資格	記 者		
〔護教〕 先づ根本問題を解決せよ		護教	T 2.1.10
〔護教〕 国民の驕慢病を癒すべし		護教	T 2.1.17
〔護教〕 東西政治家の相違		護教	T 2.1.24
〔護教〕 信仰生活の極致・バルワツシ博士を 迎ふ		護教	T 2.1.31
〔護教〕 信仰生活と道德生活		護教	T 2.2.7
〔護教〕 人格主義		護教	T 2.2.14
〔雑録〕 瑣言録	坎堂生		
〔護教〕 宗教的運動と其源泉		護教	T 2.2.21
〔護教〕 理義の念を明にせよ		護教	T 2.2.28
〔比較宗教〕 基督教の愛	高木壬太郎	宗教之日本	T 2.3.1
〔海外思潮〕 党派問題と国家問題・結婚と離 婚	高木壬太郎	現 代	T 2.3.1
〔護教〕 現状打破情弊一掃		護教	T 2.3.7
『八木翁紀念帖』	高木壬太郎	〈教 文 館〉	T 2.3.8

高木壬太郎 著作目録

[護教] 靈交し靈化せよ		護	教	T 2.3.21
[護教] 教会の要件		護	教	T 2.3.28
[雑録] 本多先生を憶ふ	坎 堂 生			
[護教] 生活としての基督教		護	教	T 2.4.11
[講演] [国民性之長短処] 感情的気質(談話筆記)	高 木 壬 太 郎	国 民 教 育		T 2.4.15
[護教] 基督教文学問題		護	教	T 2.4.18
[護教] 米国加州に於ける排日問題		護	教	T 2.4.25
生活としての基督教		開 拓 者		T 2.5.1
[護教] 基督教復興の曙光		護	教	T 2.5.2
[護教] 新しき物と旧き物と		護	教	T 2.5.9
[来世之有無]	高 木 壬 太 郎 君	高 島 大 円 編 [来世之有無] (丙午出版社)		T 2.5.15
[護教] 亡国的愛国心		護	教	T 2.5.16
[護教] 国体擁護の団体		護	教	T 2.5.23
[護教] 靈本物末		護	教	T 2.5.30
[講壇余響] 基督教主義の教育	高 木 壬 太 郎 氏 演 説	福 音 新 報		T 2.6.5
[護教] 責任の自覚		護	教	T 2.6.6
[護教] 講壇の勢力		護	教	T 2.6.13
就任演説	高 木 壬 太 郎	青 山 学 院 校 友 会 会 報		T 2.6.17
[護教] 世界的民族たらんことを期せよ		護	教	T 2.6.20
[護教] 教育と宗教の吻合		護	教	T 2.6.27
超越的生活 [未見]	高 木 壬 太 郎	中 央 福 音		T 2.6.
[護教] 平民の宗教		護	教	T 2.7.4
[護教] 日本に於ける基督教の運動		護	教	T 2.7.11
[護教] 新時代の新道德		護	教	T 2.7.18
[護教] 人心の変遷		護	教	T 2.7.25
[護教] 宗教上より見たる婦人問題(上)		護	教	T 2.8.1
[護教] 宗教上より見たる婦人問題(二)		護	教	T 2.8.8
[護教] 宗教上より見たる婦人問題(三)		護	教	T 2.8.15
[護教] 宗教上より見たる婦人問題(四)		護	教	T 2.8.22
[護教] 宗教上より見たる婦人問題(五)		護	教	T 2.8.29

高木壬太郎 著作目録

〔各教の人道観〕 ウェスレーの人道観	高木壬太郎	宗教之日本	T 2.9.1
〔一家言〕 [宗教対芸術]	高木壬太郎	六合雜誌	T 2.9.1
〔第八回夏期修養会講演〕 永遠の道	高木壬太郎	女子青年会	T 2.9.1
〔護教〕 偉大なる自我		護 教	T 2.9.5
〔護教〕 自我の基礎		護 教	T 2.9.12
〔講演〕 [教権之振興策如何(其四)] 教権の 根本は信念(談話筆記)	高木壬太郎	国民教育	T 2.9.15
〔開書応答〕 [婦人問題に就て]	高木壬太郎	基督教世界	T 2.9.18
〔護教〕 自我と欲望・時事小言		護 教	T 2.9.19
〔護教〕 宗教と実生活・時事小言		護 教	T 2.9.26
〔研究〕 現代と基督教	高木壬太郎	神学之研究	T 2.10.1
〔護教〕 文学の変遷に鑑みよ・時事小言		護 教	T 2.10.3
〔護教〕 仏教徒先づ自ら省みよ		護 教	T 2.10.10
〔護教〕 メソヂズムの特徴(一)・時事小言		護 教	T 2.10.17
〔護教〕 メソヂズムの特徴(二)・時事小言		護 教	T 2.10.24
〔講壇余響〕 基督教の死生観	高木壬太郎氏演説	福音新報	T 2.10.30
〔護教〕 天長節を祝し奉る・メソヂズムの特 徴(三)		護 教	T 2.10.31
当面の問題と基督教	高木壬太郎	開 拓 者	T 2.11.1
『基督教大辞典(訂正再版)』	高木壬太郎	〈警醒社書店〉	T 2.11.1
〔護教〕 メソヂズムの特徴(四)・時事小言		護 教	T 2.11.7
〔護教〕 伝道上実地的研究の必要・時事小言		護 教	T 2.11.14
〔講壇余響〕 聖書と人格	高木壬太郎氏説教大意	福音新報	T 2.11.20
〔護教〕 妥協主義を排せよ		護 教	T 2.11.21
〔護教〕 宗教と教育との関係		護 教	T 2.11.28
〔護教〕 改革せられたる宗教と改革せられ ざる宗教		護 教	T 2.12.5
〔護教〕 メソヂスト教会と講壇		護 教	T 2.12.12
〔護教〕 聖誕節を迎へて		護 教	T 2.12.19
〔護教〕 大正二年を送りて		護 教	T 2.12.26
耶蘇と文化の問題	高木壬太郎	東 亜 之 光	T 3.1.1
〔護教〕 大正三年を迎へて		護 教	T 3.1.2

高木壬太郎 著作目録

[護教] 現代に対する態度		護 教	T 3.1.16
[講演] [教員気質改造論] 精神教育不足也 (談話筆記)	高木壬太郎	国民教育	T 3.1.16
[護教] 独創的の宗教・時事小言		護 教	T 3.1.23
[護教] 時事所感		護 教	T 3.1.30
[哲学欄] 現代に於ける反理性運動	高木壬太郎	神学評論	T 3.1
[護教] 富と富者とに対する吾人の態度		護 教	T 3.2.6
[護教] 葉公の龍		護 教	T 3.2.13
[護教] 救主の自覚・時事小言		護 教	T 3.2.20
[護教] 救世の要件		護 教	T 3.2.27
[護教] 知識と好楽と		護 教	T 3.3.13
[護教] 時局に対する吾人の態度		護 教	T 3.3.20
[護教] 責任を重ぜよ		護 教	T 3.3.27
[護教] 外先内後		護 教	T 3.4.3
[護教] 監督教会と教会同盟		護 教	T 3.4.10
[祝辞及論説] 教育家の精神修養	高木壬太郎	日本之小学教師	T 3.4.15
[護教] 皇太后崩御		護 教	T 3.4.17
[護教] 編輯主任を辞す	高木壬太郎		
[全国各中学及師範学校長の青年に与へたる 金科玉条]	高木壬太郎	雄 弁	T 3.6.1
[現代青年及び地方青年団に対する諸名士の 希望(下)]	高木壬太郎	青 年	T 3.6.1
[護教] 講壇の勢力	高木壬太郎	護 教	T 3.6.12
[論説] 近代批評の基督教々義に及ぼせる 影響	高木壬太郎	新 人	T 3.7.1
[護教] 既成宗教に対する無理なる非難	高木壬太郎	護 教	T 3.7.3
[講壇余響] 天を相手とする教育	高木壬太郎氏説教	福音新報	T 3.7.23
[護教] 欧米諸国宗教々育の趨勢	高木壬太郎	護 教	T 3.7.31
[大学令改正及び学位規程につき]	高木壬太郎氏	文明評論	T 3.8.1
[雑録] [夏期の消息(三)]	高木壬太郎	基督教世界	T 3.8.20
[支那研究号] 支那に於けるプロテスタン ト教	高木壬太郎	新 人	T 3.11.1

高木壬太郎 著作目録

〔護教〕 欧州の戦乱と基督教	高木壬太郎	護 教	T 3.11.13
欧州戦乱と基督教	高木壬太郎	日本及日本人	T 3.11.15
序言	高木壬太郎	浅田栄次著『英和英諺語辞典』(文会堂書店)	T 3.12.3
〔生活と宗教〕	高木壬太郎	〈警醒社書店〉	T 3.12.8
〔社会問題と基督教(其一)〕 基督教の社会的使命	高木壬太郎	基督教世界	T 4.1.1
爱国心新意義	高木壬太郎述	博 愛	T 4.1.10
兵力に由るに非ず	高木壬太郎	日本及日本人	T 4.6.15
〔論説〕 ヨハン、フツス殉教五百年に際して	高木壬太郎	新 人	T 4.7.1
〔雑録〕 [予が伝道の動機]	高木壬太郎	基督教世界	T 4.7.1
〔総会欄〕 [本多監督追悼談]	高木壬太郎氏	護 教	T 4.10.15
生の宗教	高木壬太郎	開 拓 者	T 4.11.1
〔基督論〕 [イエス・キリストは神か人か]	高木壬太郎	新 人	T 4.11.1
〔大浦、乃木問題に対する代表輿論 三千名士(二)国民道徳を危くする乃木問題〕	高木壬太郎	実業之世界	T 4.11.1
教育と宗教的信念との関係	高木壬太郎	婦一協会会報	T 4.11.25
〔乃木、大浦問題に対する三千名士の意見 第三回発表 一、大浦問題〕	高木壬太郎	実業之世界	T 4.12.1
〔講演〕 生の要求と宗教	高木壬太郎	基督教世界	T 4.12.2
〔講演〕 生の要求と宗教	高木壬太郎	基督教世界	T 4.12.9
〔護教〕 大正五年を迎へて	高木壬太郎	護 教	T 5.1.1
〔百人百字観〕 命	高木壬太郎	日本及日本人	T 5.1.1
〔教界春秋〕 基督教の戦争観	高木壬太郎	東 亜 之 光	T 5.1.1
自己の運命は自己にて開拓せよ	高木壬太郎	実 力 世 界	T 5.1.1
〔論説〕 教育に於ける宗教の必要及其方法	高木壬太郎	大 阪 講 壇	T 5.3.1
思ひ出づるまゝ	高木壬太郎	浅田みか子編 〔浅田栄次追懐録〕	T 5.3.28
人文教育と現代青年	高木壬太郎	実 力 世 界	T 5.4.1
〔護教〕 復活節の教訓	高木壬太郎	護 教	T 5.4.21
〔社会改善の問題〕 男女の倫を正すべし	高木壬太郎	新 女 界	T 5.5.1

高木壬太郎 著作目録

〔道話〕 運命論	高木壬太郎	道 話	T 5.6.1
〔護教〕 排独逸主義	高 木 生	護 教	T 5.6.23
武力の勝利を謳歌する勿れ	高木壬太郎	実 力 世 界	T 5.7.1
〔想苑〕 青山学報発刊に就て	(高木院長)	青 山 学 報	T 5.7.10
〔雑録〕 始業式演説	(高木院長)		
〔論叢〕 学友会雑誌を餞す	高木壬太郎	青山学院学友会雑誌	T 5.7.21
〔現代名家文章大観〕 人格に文材を盛れ	高木壬太郎	日本及日本人	T 5.9.20
〔論説〕 「基督模倣論」の宗教	高木壬太郎	開 拓 者	T 5.10.1
〔想苑〕 一層の責任を加ふ・教育と宗教との融合点		青 山 学 報	T 5.10.16
『基督教模倣論』の宗教	高木壬太郎	神 学 評 論	T 5.10.25
〔何故に伝道する乎〕 運命と摂理	高木壬太郎	新 女 界	T 5.11.1
〔想苑〕 青山学院の過去現在及び将来	(高木院長)	青 山 学 報	T 5.12.25
〔護教〕 我国精神界の要求と基督教の使命(上)	高木壬太郎	護 教	T 6.1.5
〔護教〕 我国精神界の要求と基督教の使命(下)	高木壬太郎	護 教	T 6.1.12
〔論叢〕 青年と幻影	高木壬太郎	青山学院学友会雑誌	T 6.2
軍国主義と人道主義	高木壬太郎	開 拓 者	T 6.3.1
〔基督研究(其二)〕 神子の意識	高木壬太郎	大 阪 講 壇	T 6.3.1
〔試験前の学生に与ふ〕 能く眠れと勧む	高木壬太郎	柔 道	T 6.3.1
〔高論卓説〕 諦めるな	高木壬太郎	新報知家庭乃花	T 6.8.1
〔ルーテル記念号〕 宗教改革者ルーテルの生涯と其の事業	高木壬太郎	護 教	T 6.10.26
〔想苑〕 告辞	高木壬太郎	青 山 学 報	T 7.5.30
〔護教〕 恩師の遺せる教訓	高木壬太郎	護 教	T 7.7.28
予の自然観及び人生観	高木壬太郎	日本及日本人	T 7.9.20
『基督教大辞典(参版)』	高木壬太郎	〈警醒社書店〉	T 7.10.1
『本多庸一先生遺稿』	高木壬太郎編纂	〈日本基督教興文協会〉	T 7.11.12
〔クリスマス号〕 平和の曙光	高木壬太郎	護 教	T 7.12.20
〔英雄と美人〕 人道的英雄出でよ	高木壬太郎	日本及日本人	T 8.1.1
却て人心を混乱せしむる虞なきか 未見	高木壬太郎	青 年	T 8.1.1

高木壬太郎 著作目録

〔憲法制定三十年の感想〕 如何にして憲法 発布三十年を記念すべきか	高木壬太郎	中外新論	T 8.2.1
〔想苑〕 告別の辞	高木壬太郎	青山学報	T 8.5.15
〔想苑〕 青山学院教育の三大主義	(高木院長)	青山学報	T 8.7.20
〔諸家の義民観〕 義民としての耶蘇	高木壬太郎	日本及日本人	T 8.9.20
〔社説〕 青年学生の卒業を祝す	高木壬太郎	教界時報	T 9.4.9
〔想苑〕 青山学院の印記	高木壬太郎	青山学報	T 9.5.30
『世界聖典全集 基督教 新約全書解題』	高木壬太郎	(世界聖典全集刊行会)	T 9.6.20
〔社説〕 基督教の根本教理	高木壬太郎	教界時報	T 9.7.16
〔男性美〕 男性美の典型	高木壬太郎	日本及日本人	T 9.9.20
隠れたる女流教育者 小林とみ子の死を悼 む	高木壬太郎	教界時報	T 9.9.24
外国宣教師と日本の教化	高木壬太郎	太陽	T 9.10.1
〔想苑〕 基督教主義学校は何を以て其特色 となすべきか	高木壬太郎	青山学報	T 9.10.25
世界日曜学校大会の感想	高木壬太郎	教界時報	T 9.11.5
神社と宗教に就て	高木壬太郎	教界時報	T 9.11.12
〔想苑〕 智能を啓発し徳器を成就す・一戸博 士逝く	高木壬太郎	青山学報	T 9.12.25
〔教師消息〕 隠れたる女流教育者	高木壬太郎	東洋英和女学校 同窓会々報	T 9.12
〔門松は冥途の旅の一里塚目出度もありめ でたくもなし 諸名家の感想〕 永遠の希望と 光明	高木壬太郎	日本及日本人	T 10.1.1
〔余の本年より改め度いこと〕	高木壬太郎氏	実業之世界	T 10.1.1
〔論説〕 神社崇敬と基督教徒	高木壬太郎	開拓者	T 10.2.1
〔最近余の頭脳を往来する感想〕	高木壬太郎	実業之世界	T 10.2.1
〔雑録〕 自から物せられた高木博士の伝記	聖山生(有富虎之助)	開拓者	T 10.3.1
〔雑録〕 自から物せられし高木博士の伝記	聖山生纂	開拓者	T 10.4.1
自から物せられし高木博士の伝記(三)	聖山生纂	開拓者	T 10.7.1
『基督教大辞典(参版)』	高木壬太郎	〈警醒社書店〉	T 12.8.5
『基督教大辞典(改版)』	高木壬太郎	〈警醒社書店〉	S 3.2.20

高木壬太郎 著作目録

『詩篇講義』	高木壬太郎 (高木武夫編)	〈新生堂〉	S 6.3.9
『基督教大辞典(増補版)』	高木壬太郎 (阿部義宗編)	〈警醒社〉	S 9.3.28
『基督教大辞典(増補版)』	高木壬太郎 (阿部義宗編)	〈警醒社〉	S 9.5.15
〔講壇〕日本民族思想上の三大欠点	高木壬太郎	中央会堂教報	M32.1.3
〔説教〕加那太国民の宗教的生活	高木壬太郎	中央会堂教報	M32.8.30
〔説教〕宗教の本質	高木壬太郎	中央会堂教報	M33.1.8

* 『中央会堂教報』は日本キリスト教団本郷中央教会蔵。同教会の宮崎康久氏よりご教示をいただきました。



ビクトリア大学における壬太郎